

令和8年度 教育・保育の内容並びに子育て支援に関する全体的な計画

社会福祉法人愛稚会 幼保連携型認定こども園 翠松保育園

法人理念		こどもの最善の利益を守り 児童福祉と幼児教育の実践で地域に貢献する ～すべてのこどもが健やかに育つ地域を目指して～									
教育・保育方針		幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、子どもの最善の利益の実現に向けて、乳幼児期における教育及び保育を一体的に実施する。					教育・保育目標	《もうひとつのおうちで育ちあう子どもたち》 ＊ げんきな子ども ＊ やさしい子ども ＊ つくりだす子ども			
教育・保育目標		6か月未満	6か月から1歳未満	1歳から2歳未満		おおむね2歳	おおむね3歳	おおむね4歳	おおむね5歳	おおむね6歳	
		特定の保育教諭等との情緒的な絆の形成	情緒的な絆の深まり 活発な探索活動	周囲への自発的働きかけ 言葉の習得		基本的運動機能の発達 自我の育ち	基本的生活習慣の形成 知的興味や周囲への関心	想像力の広がり 友だちとのつながり	思考力の芽生え 集団遊びへの発展	育ちあう中での、思考力 認識力・自立心の高まり	
養 護	生命の保持	・保育教諭等の受容的な関わりにより生理的欲求を満たす。 ・家庭と連絡を取りながら健康状態を把握する。	・身の回りのものの安全を確認する。	生命の保持	・生活リズムを大切にしながら個々に応じた生理的欲求が満たされるようにする。	・探索行動が盛んになる中で、安全に留意して活動できるようにする。	・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの基本的生活習慣が身につくようにする。	・1日の生活の中で動と静のバランスがとれるようにする。 ・自分から体の異常を訴えることができるようにする。	・健康や安全の大切さを知らせ、園内の環境保健に留意し、快適に生活できるようにする。	・生活に必要な基本的習慣や態度を理解し、適切な行動を選ぶことができるようにする。	
	情緒の安定	・十分にスキンシップを取りながら心身ともに快適な状態を作り、情緒の安定を図る。	・語りかけやスキンシップで情緒を安定させ、甘えなどの欲求を満たす。	情緒の安定	・友だちや周囲の人への興味や関心が高まり、園児相互のトラブルも多くなるが不安が強まらないように保育教諭等の優しい関わりにより、お互いの存在に気付くようにする。	・保育教諭等の共感、自我の受け止めにより、自分でしようとする意欲が高まり自信を持たせるようにする。	・一人一人の園児の気持ちを温かく受け容し、個人差を考慮して安心して活動できるようにする。	・一人一人の園児を受容し、保育教諭等との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して 表すことができるようにする。	・様々な関わりの中で他者を受容する事や自己肯定感を育む。	・一人一人の園児が主体的に活動し、自信を持つことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。	
教 育	健やかに伸び伸びと育つ	・授乳・排泄・睡眠のリズムが整い機嫌よく過ごす。	・姿勢を変えたり移動したりしながら、全身を動かし、両手を自由に使って探索活動を楽しむ。	健康	・自分の意思で自分の体を動かせるようになり、身近な人や身の回りのものに働きかけていく。	・基本的運動機能や指先を使う遊びを楽しむ。	・体を動かして、戸外遊び、平行遊び、模倣やごっこ遊びを楽しむ。	・全身を使いながら様々な遊具や遊びなどに挑戦して積極的に遊ぶ。	・運動機能が高まり、仲間と共に活発に遊ぶ。	・協同遊びやごっこ遊びを通し、充実感や満足感を味わう。 ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、理解して行動する。	
	身近な人と気持ちに通じ合う	・応答的な関わりの中で信頼感が芽生える。	・人見知りをしたり、保育教諭等に優しく受け止めてもらう中で、愛着関係を育む。	人間関係	・身近な人に興味を持ち関わって遊ぶ。	・自分の気持ちを安心して表したり、思い通りにいかない事にも徐々に気付く。	・保育教諭等が仲立ちとなり、簡単な決まりを守ることを覚えはじめる。	・我慢や葛藤を経験しながら友だちとのつながりを深める。	・仲間の中の一人としての自覚が生まれ、自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高める。	・自分の意見も主張するが相手の意見も受け入れ、友だちと協力したり工夫し遊びを発展させる。	
		・あやされて声を出したり、笑ったりする。	・自分の意思や欲求を喃語や身振りで伝えようとする。	言葉	・簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとする。	・保育教諭等を仲立ちとして生活や遊びの中で簡単な言葉のやりとりを楽しむ。	・言葉のやりとりができるようになり、言葉を交わす心地よさを味わう。	・日常生活に必要な言葉を理解する。 ・絵本、紙芝居などを見たり、聞いたりして想像する楽しさを味わう。	・自分で考え気持ちを表現したり、相手の気持ちを聞いたりして、伝え合うことを楽しむ。	・共通の話題について話し合い、自分の考えを相手に分かるように話す。 ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。	
	身近な物と関わり、感性が育つ	・聞く、見る、触るなどの働きが豊かになる。	・周囲の人や物に興味を示し、自分から近づいて関わろうとする。	環境	・玩具や自然物に触れ、探索などをして遊ぶ。	・玩具や自然物の簡単な色や形、数の理解が芽生える。	・身の回りの物の色、数、量、形などに興味を持つ。	・自然など身近な環境に興味を示し、関わり方や遊び方を体験していく。	・身近な社会や自然事象について質問したり、自分で調べたりする。	・思考力や、認識力が高まり、自然事象や社会事象、文字や数などへの興味や関心が深まる。	
		・笑ったり、泣いたり、体の動きなどで自分の欲求を表す。	・保育教諭等のすることに興味を持ったり、模倣したりする。	表現	・保育教諭等と一緒に絵本の内容や動作を言葉で表したり歌を歌ったりして、模倣活動を楽しむ。	・興味のあることや経験したことなどを、保育教諭等とともに好きように表現する。	・自分が感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かして表現しようとする。	・様々な素材や用具を使って自分なりに描いたり作ったりする。	・絵本、物語、紙芝居等に興味を持って見たり聞いたりして、想像する楽しさを味わう。 ・イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	・友だちと共に表現する事で、充実感や達成感を味わう。	
	食育	食を営む力の基礎	・保育教諭等との関わりの中で、個人差に応じた授乳を行う。 ・「お腹がすいた」というリズムを持つ。 ・コップを持って飲もうとする。	・離乳を進める中で、様々な食品に慣れる。 ・楽しい雰囲気の中で食べさせてもらう喜びを知る。 ・保育教諭等の言葉掛けて、手づかみ食べやスプーン等を使って自分で食べようとする気持ちを持つ。 ・コップを持って飲もうとする。		・友だちと一緒に楽しく、いろいろな食べ物を味わう。 ・保育教諭等の言葉掛けて、正しくスプーンを持ったり器を持って飲もうとする。	・楽しい雰囲気の中で、嫌いな物も食べようとする。 ・箸を使って食べる。	・友だち等と会話しながら、身近な人と一緒に食べることの楽しさを味わう。 ・食事に必要な習慣や態度を身につけようとする。	・食材の大切さを知り、やさしい作りなどを楽しむ。 ・自然の恵みや作ってくれる人達への感謝の気持ちを持つ。	・食品の種類や働きを知り、栄養バランスを考慮した食事に関心を持つ。	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性、規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり、生命尊重 ・数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現								
重点的に取り組む教育・保育											
発達過程とクラスの相関性			人権尊重		インクルーシブ保育		保護者支援		地域の子育て家庭への支援、地域の連携		小学校への円滑な接続
発達の連続性を踏まえ、子どもの発達段階や育ちのつながりに応じた環境構成を行い、計画的に教育・保育を展開する。 年齢別クラスを基本としつつ、異年齢児が関わる機会を設け、年上の子への憧れや年下の子への思いやりが育まれる集団づくりを行う。			・子どもの最善の利益を第一に考え、子どもの主体性や思いを大切にしたい関わりを基本として、教育・保育を実施する。 ・人権擁護チェックリストを定期的に実施し、職員間での共有・振り返りを通して、関わりや支援の改善につなげる。		・障がいの有無、発達の特性、文化や家庭背景などに関わらず、すべての子どもが共に育ち、学び、生活できる環境をつくる ・子どもの多様性を前提に、個別のニーズに応じた支援を行い、集団の中での育ちを保障する		・家庭が子育ての主体であることを尊重し、育児相談を通して保護者に寄り添った支援を行う。 ・保育参加や個別懇談会を通して、子どもの育ちを共有し、家庭と連携した教育・保育を進める。		地域の子育て家庭に寄り添った支援を行うとともに、関係機関や地域との連携を通して、子どもと家庭を地域全体で支える体制づくりを進める。 ・子育て支援センターの運営 ・育児相談 ・一時預かり事業 ・乳児等通園支援事業 ・坂井輪中学校区まちづくり協議会との連携 ・坂井輪地区社会福祉協議会との連携		子どもの育ちの連続性を踏まえ、就学前教育・保育から小学校教育への円滑な接続が図られるよう、教育・保育を展開する。 ・小学校意見交換会等の参加 ・幼保連携型認定こども園園児指導要録の送付 ・新通小学校との新潟市架け橋カリキュラムの作成実施
安全対策・事故防止			保健・衛生管理		個人情報保護・苦情解決		職員の資質向上		自己評価		中学校・高校・大学との連携
子どもの生命及び心身の安全を確保し、非常時においても教育・保育を継続できる体制を整える。 ・避難訓練（火災・地震・不審者対応）の実施 ・ヒヤリ・ハット報告および事故防止チェックリストの継続的实施 ・リスクマネジメントプロジェクトによる安全管理体制の推進			子どもの健康の保持・増進を図るとともに、日常の保健・衛生管理を適切に行い、安心して生活できる教育・保育環境を整える。 ・健康状態、発育発達状態の定期的な把握 ・食育に関するプロジェクト ・保健に関するプロジェクト ・感染症、与薬の対応 ・アレルギー食の対応 ・睡眠チェック表の継続的实施 ・年間保健計画の実施・評価		個人情報保護を適切に取り扱うとともに、苦情や意見に誠実に対応し、信頼される園運営を行う。 ・個人情報保護に関する法令や規程を遵守し、職員への周知・研修を通して適切な管理を行う。 ・苦情解決体制を整備し、苦情や意見に対して迅速かつ丁寧に対応するとともに、園運営の改善につなげる。		職員一人ひとりの専門性と実践力の向上を図り、組織として教育・保育の質の向上につなげる。 ・園外研修の参加 ・園内研修の実施 ・スキルアップシート継続実施 ・第三者評価受審の検討（三回目） ・スキルアッププロジェクト ・業務改善推進プロジェクト		教育・保育の実践や園運営を振り返り、課題を明確にするとともに、自己評価の結果を公表し、継続的な改善を通して教育・保育の質の向上を図る。 ・基本理念、教育・保育目標、全体的な計画、事業計画の策定と公開 ・年間計画の作成と評価 ・保護者アンケートの実施 ・教育・保育内容等の評価		中学校・高校・大学等との連携を通して、子どもを取り巻く育ちの環境を豊かにするとともに、次世代の育成や地域に根ざした教育・保育の充実を図る。 ・職場体験等の受入 ・家庭科保育園訪問学習受入 ・屋内体育館の借用 ・「にいがた子どもくわはつプロジェクト」について新潟大学との研究及び協力